

住民主体のまちづくり

No.13 2014. 12

編集発行：車尾地域づくりモデル検討会

■前号につづき、首都大学の杉教授による助言の概略を掲載します。

●計画づくり

地域カルテに基づいて、あとは具体的にどんな事業やるかということの計画づくりです。これが必要になってきます。各部門ごとに、今いろいろな意見が出ていますよね。どこからどう取組んでいくのか、全体としてもやらなくてはならないこともありますし、今こういったことをあげていただいたことも既に取り掛かりもあって、プラスアルファでやっていくこともあれば、1から組み立て直さなくてはならないこともあったりと、いろいろあったと思いますが、このなかから一度にやっっていこうかと思ってもなかなか出来ませんので、優先順位を付けて、何からやっっていくのか。どのようにやっっていくのか。計画を作っっていくことになります。計画を作っっていくことは第2段階になります。

●活動資金

その次にやらなくてはならないことは、やはりお金がかかりますね。説明していただきましたものの中に、やはり「やらされ感」的なものもありました。自分達で課題を出してこういうようにやっっていこう、という取組みをしていくと「やらされ感」は減ってくると思います。これをやるには、どれくらいのお金が掛かる。現実にはお金がふんだんに有る訳ではありませんから、限られた予算の中でということになると思いますが、じゃあその中でどうやっっていこうか。そうしたこの地区全体で使うお金をどうやっって使っっていこうかということ、皆さんで決めていかななくてはけません。これは市が細かく出している補助金の1本化にも仕組みとしては繋がりますが、一番重要なことは仕組み作りよりも、皆さん自身でどこにどうい予算を配分していくかを考えていく仕組みが必要になっていきます。

●プランは3つのステップ

具体的な事業に移る前に自分達の地域を見つめ直し、診断をして地域カルテを作る第1段階、次に計画を作る第2段階、つぎに予算をどうしていくのか第3段階、この3つのステップを自分たちで出来る仕組みがあり、そういったことをやろうとしている地域は、それぞれの取組みがうまくいっていますね。是非この3つの点を、ステップを踏んでやっていただけたらと思います。

●防災部門

個別にも非常におもしろい各部門から出されたことには感心しましたし、的確に課題を捉えているなと思いました。ここをしっかりとやっていただきたいというところが出ていたと思います。防災部門、これは非常に重要です。地区全体で学校の校庭とかで訓練をする、というような取組み、これを出来るようにすることが大きな目標であると思います。是非そこにもって行っていただきたいと思います。それと災害時の要支援者の問題、実は次の地域福祉の見守りにも繋がる部分ですが、実は要支援者のリストだけあっても動きません。例えばあそこの家のおばあちゃんが居て、足腰悪くて助けなくてはいけない場合、家の中に居ても何処に居るか分からないでいたら助けられないですよ。昔だったらあそこのおばあちゃんは、あそこの部屋に居るとということが分かっていたんですが、今は分かりませんよね。そういうように普段から見守りを行っている方々との繋がりが必要になりますので、防災は防災だけで成り立っている訳ではありませんから、そういった部分でどう連携していくのかですね。この点について正に「向こう三軒両隣」的なものを昔とは違う形で、今は昔のように簡単に上がりこんでというわけにはいきませんので、今の時代どういう仕組みをとっていくのか、「ネットワークの繋がり」の中で考えていくのかなと思います。

自分たちのまちは 自分たちの力で